

「平成 30 年 8 月 1 日に思う」

またしても“招かれざる客”の襲来です。

先月早々、活発な梅雨前線による記録的な大雨により西日本を中心に甚大な被害が発生しました。この豪雨による死者数は、昭和 57 年の長崎大水害以来となる 200 人を超え、平成最悪の事態となっています。

複数の積乱雲が連続して発生、停滞することで集中豪雨をもたらす「線状降水帯」が話題とされた昨年の九州北部豪雨からわずか 1 年。またしても「今までに経験したことのない大雨」「重大な危険が差し迫った異常事態」「50 年に一度の大雨」等々、おだやかでない情報が飛び交いました。

気象庁の話では、2013 年に「大雨特別警報」が運用されて以来、被害があとを絶たず、1 時間に 50 ミリ以上の大雨が発生した回数は右肩上がり、最近 10 年間の年間平均発生回数は、観測開始当初のそれ(1976 年～85 年)と比べると約 1.4 倍になっているとのこと。

地震や台風、大雨がますます巨大化するとされる昨今、行政はその体制づくりに猶予はありません。とりわけ**自らが命を守る行動とその対策**が必須であると考えています。正直言って、各地域には“行政からは見えづらい事態”や、“地域によって異なる事態”があると思います。あらためて、「自主防災組織」や「自主避難」のあり方について、早急に議論を深めたいと考えています。

被災地の 1 日も早い復旧と復興を心よりお祈りするとともに、“災害に強い村づくり”に向けて誠心誠意取り組んでいく決意です。

こちらをご参照ください

平成 29 年 11 月 1 日に思う